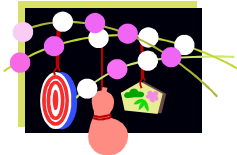




くれよん

2010年1月1日 第71号
NPO 法人町田市学童保育クラブの会
所在地 町田市忠生 3-12-11
電話 042-791-2556
広報委員会 発行



今年もよろしくお祈いします。 理事長 三階広明

明けましておめでとうございします。また、新しい年が始まりします。今年もよろしくお祈いいたします。

皆さんにとって昨年はどうな年だったでしょうか。年末恒例になった「今年の漢字一文字」は、主催団体の不祥事が元でその選考が危ぶまれていましたが、『新』という文字が選ばれたことはご存知のとおりで、「政権交代」等が選考の大きなポイントになったとのことです。

法人にとっても新たな課題に対して、これまでにはなかった取り組みの第一歩を踏み出した年という意味で、この『新』という一文字はふさわしいのではないかと感じています。踏み出した一歩を確実なものとし、「次の一歩」につなげていく取り組みをさらに進めていきたいと思ひます。

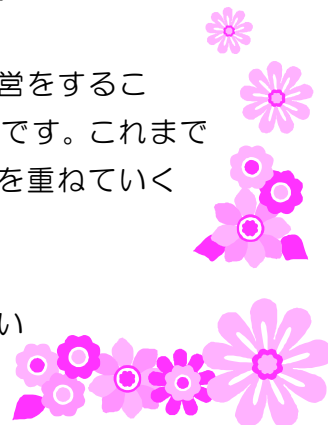
しかし、改めて足元の課題を検討すると、解決したといふことができるのは「1小学校区1学童クラブ」といふ『数』の課題だけであり、私たちが以前から指摘してきた「大規模化」や「必要とされる4年生以上の保育」などの課題は何も改善されていないといふのが現実です。

特に「大規模化」の課題は、「子どもたちの生活の場としての学童保育」といふ視点から「安心で安全な、より豊かな放課後の生活を保障する」ためにも早急に解決すべきものであり、根本的解決策が、子どもたちの生活圏（概ね小学校区）内における『分離・分割による増設（＝複数クラブの設置）』であることは明らかであるにも関わらず、「児童数の減少」を理由として『施設拡張による一時的分割』により対応していることは残念です。今後の課題として、改善のための運動をさらに強くしていくことが必要です。

また、町田市においても本格的な運用が始まった「指定管理者制度」については、関係する団体と連携をしながら改善に向けた取り組みが必要だと考えています。

さて、この4月からあらたに「大戸のびっ子学童保育クラブ」の運営をすることとなりました。「大戸のびっ子学童保育クラブ」は歴史のあるクラブです。これまで運営を支えてこられた方々の思いも引き継いで、新たなクラブの歴史を重ねていくことができると考えています。

いつも課題に追われ、法人を支えていただいている皆さんにはお祈いするばかりで本当に申し訳なく思ひていますが、「子どもたちとその親たちの願い」の実現のため、引き続きご協力とご支援をよろしくお祈いいたします。





今年度の委員会が組織されてから早くも中盤となりました。保護者と理事、指導員で構成される委員会は全部で5つあり、毎月1回開かれています。これまでに進められてきた活動内容をご報告致します。

《調査研究委員会》

利用者アンケート



一昨年度より利用者アンケートを行い、学童保育クラブを利用される皆さんのニーズがどのようなものなのか、現状の問題点はどこにあるのか、アンケートを通して分析を行っています。また、アンケートを元に日頃の業務改善をはかることを目的として取り組んでいます。

昨年度は、当法人が運営を受託して間もない、鶴川・金井クラブに関してアンケートを実施し、少しでも充実した学童保育クラブとなるよう調査

研究していきました。

今年度は全ての学童保育クラブに対して、昨年度とほぼ同様の項目でアンケートを実施しました。6月下旬にアンケートを配布し、7月中旬にアンケートを回収。8月から約2カ月をかけてアンケートの集約（データ化）をし、現在は集約したデータを委員会の中で保護者の方と指導員と一緒に分析しています。指導員・保育面・運営面・総合面などについて、満足・不満足が示されるので各クラブの特徴がわかりました。年内には本委員会での分析結果をまとめ、各クラブで再度分析してもらい業務改善につなげていけるよう話し合いをしております。取り組んだアンケートについては、全クラブのアンケート結果を冊子としてまとめる作業も同時に進行しております。

（指導員 上田）

大規模化の課題

09年度町田市の学童保育クラブ入所状況は、小山ヶ丘の178名をトップに（4月1日付）100名をオーバーしているクラブが6ヶ所あります。国の諮問機関である『子ども未来財団』は調査研究の結果、“定員はおおむね40名程度とすることが望ましい。”としており、国の施策としても71名を超えた場合、2ヶ所に分割するよう指導が出ました。町田市の中には、この基準に当てはまる施設が14ヶ所あります。定員を大幅に上回っているクラブが当たり前の状況になっています。

町田市はこれまで、各小学校区に1ヶ所の学童保育クラブを設置することを目標に、今年度でようやく実現することが出来ました。しかし、私たちがこれまで指摘してきた大規模化がもたらす問題までは、解決には至っていません。そうした中、大勢の子どもたちが生活する環境では、日々さまざまな問題が起こっています。

私たちの法人はすでに07年、この調査研究委員会において、“町田市の小学校児童数の今後の推移予測と学童保育への影響”を調査し、町田市に対して学童保育所の設置・運営基準のあり方を提案してきました。国もまた、少子化対策・仕事と子育ての両立支援として、“10年後に学童保育の利用児を3倍にする”と“新待機児童ゼロ作戦”を提案しました。ますます学童保育クラブの利用率が上がります。委員会の中では、各クラブがどのような問題を抱えているのか、今後の児童数の推移はどうなっていくのかを調べています。そして、大規模化の地域には2ヶ所目の学童保育クラブが作られていくよう、町田市が11年度見直しをする“町田市中期経営計画重点政策プラン”に、意見書が提案できるように準備をしているところです。

（指導員 北島）



子育て支援『くれよんキッズ』『高学年保育』

保護者の願いを受け止め、子どもの育ち・居場所の検討を“地域貢献子育て支援委員会”として2～3年調査してきました。これを基に『くれよんキッズ』・『高学年保育』を実施するための具体的な計画をつくる目的で進めています。『くれよんキッズ』は成瀬地区では“昔遊び(けんだま・お手玉・めんこ)”を、鶴川地区では“木工教室”を、忠生地区では“映写会”と3つの地域で行う予定です。2学期の予定でしたが新型インフルエンザの影響で3学期に延期しました。『高学年保育』については、場所さがしや補助費について調査をしています。



子どもの居場所アンケートで、夏休みの4年生以上の保育希望者はいるのかを実際に現3年生と4年生中心に調査しました。その結果、保育希望では夏休みの期間が圧倒的に多く、長時間1人で過ごす事に不安を感じている方もいました。時間帯はお弁当を食べる時間から夕方の5時位の希望があり、やはり「週2～3回お弁当を誰かと一緒に食べる時間が欲しい」「友だちと一緒に過ごせる時間と場所が欲しい」という意見も多くありました。学校の施設が借りられることが一番よいのですがなかなか難しい問題があります。実施にむけて調査研究を続けていきます。

(指導員 横山)

《広報委員会》

ホームページ

ホームページ担当では、今年度は法人ホームページの本格的なりニューアルを目標に活動をすすめています。ホームページの全体の構成や、見やすく、更新しやすいものにするためにはどんな工夫が必要か、意見を出し合いまとめています。全国的にも認知度の上がるようなものにしたいとも考えています。

保護者の方々のご協力をいただきながら手探りで作成してきたホームページですが、法人ホームページを柱に11クラブすべてにホームページが出来上がりました。ぜひ、ご覧になってください。各クラブのホームページの内容や改善提案について毎月の委員会で話し合い、時にはパソコンに向き合っただけの勉強会などもおこなってきました。

クラブごとのカレンダーや行事の様子など、楽しい子どもたちの姿をお伝えしていけるように更新の頻度をもっと上げ、保護者の方々に「クラブは楽しそうだなあ」と思ってもらえるようなホームページにすることも目標に活動をすすめています。

10月からは「広報委員会のSNS」(ネット上の掲示板のようなもの)を活用し、月1回の委員会だけでなく意見交換をおこなえるような活動もし始めました。

なお、委員会だけでは各学童クラブのサポートまで手が回りません。IT関係に強い保護者の皆さんの各クラブへの応援をお待ちしています。

(理事 守屋)

広報誌『くれよん』

当法人の広報誌として『くれよん』(毎月1回の発行)は誕生しました。この広報誌を通して今年度は、法人の動き、情勢、また子育てに役立つ絵本やあそび場を紹介してきました。委員会のなかでは、集まった情報や依頼した原稿を読み合わせ、誤字・脱字がないか編集作業と内容の検討を行うとともに、次号に掲載するトピックを考えています。これからもみなさんの知りたい情報を取り入れ、発信できるツールとして取り組んでいきたいと考えています。



(指導員 橋本)

おすすめスポット紹介

【子どもセンターぱお】

2009年4月、ぱあん『つるっこ』について3館目となる『子どもセンターぱお』が町田市の西の相原町にオープンしました。建物は木の温もりを大切にした落ち着いたインテリアで、魅力的なものになっています。



子どもセンターは0歳から18歳までの子どもが自由に過ごせる施設です。室内で運動・音楽・工作・読書・料理など楽しみながら過ごせます。また、センター職員による企画も盛りだくさんです。午前中は小さなお子さんと保護者のふれあいの場として人気があり、午後は小学生、中高生が思い思いに活動しています。ちょうど私が伺った日も小学生が“カブ”（体育館風の部屋）でドッジボールをしていたり、階段下でのんびりくつろいでいたりする姿を見かけました。

また『ぱお』は他の子どもセンターと違い、相原中央公園と隣接していることで、室内遊びに飽きたら公園の遊具で遊んだり、林の中で木の実を拾ったり、かくれんぼしたりと戶外遊びも楽しめるのです。『ぱお』という名前の由来はモンゴルの草原の遊牧民のテント様式の住居『ぱお（包）』から名付けられたそうです。『ぱお（包）』は旅人がいつでも立ち寄れるようになっているように、『子どもセンターぱお』は自然の中に建ち子どもたちを温かく迎えてくれる施設なのです。 今度のお休みに小旅行気分で、遊びに行ってみませんか。

- 利用時間：10時～21時 ※保護者の付き添いがない小学生は、午後6時まで（火曜・祝日の翌日・年末年始（12/28～1/5）は休館日）
対象：0歳から18歳までの子どもとその保護者 ※乳幼児のお子さんは、必ず保護者同伴
徒歩：相原駅より約13分 駐車場：16台※台数が限られていますので、公共交通機関をご利用の上での来場にご協力下さい。

バス：相原駅バス乗り場より大戸行・法政大学行き・東京家政学院行きにのり「相原小学校前」下車徒歩5分

(<http://www.city.machida.tokyo.jp/shisetsu/youth/pao/index.html>)

(なかよクラブ指導員 竹村)



【銀河アリーナ】

町田市のとなり相模原市には、自然に囲まれた数々の大きな公園があります。その中のひとつ、淵野辺公園は本格的な球場・テニスコート・芝生広場・遊具広場・樹木広場等、広い公園です。なかでも、おすすめは“銀河アリーナ”。6～9月はプール施設ですが10～5月はスケートリンクに大変身します。大きな建物は良く見ると“カブトムシ”の姿。



リンクは小さい子どもでも安全に滑ることが出来る小さなリンクと、メインの大きなリンクがあります。日・祝日はスケート協会の先生がワンポイントレッスンして下さることもあり、初めての滑りでも丁寧にアドバイスしてくれ安心です。貸し靴サイズは普段より1センチ大きいのを選びますが、15～17センチは2枚刃の物があるので、小さい子さがあるご家族でも皆様で楽しめます。また、外階段から3階に上がると観覧席があり、リンクを見下ろせます。ピカピカ電飾が光るスケート靴、フィギュアの華麗な滑り、小さな子どもが見事なカーブ・・・見ているだけでも楽しめますよ。冬休みのお出かけにおすすめです。

- 利用時間（スケート）：9～20時15分（基本的に無休ですが、点検や大会使用で利用出来ない場合もあります。）
入館料（大人800円小人400円）貸し靴料（大人400円小人200円） ※手袋が必要です。（売店販売あり）ニット帽子等があると安全です。
バス：相模大野駅・淵野辺駅発『淵野辺公園』下車すぐ 駐車場：無料P有り（ヘルメット無料貸し出し有り）

(<http://www.sagamiharashi-toshiseibi.com/>)

(図師クラブ指導員 大野)

今後の予定

- 1月 8日（金）19：30～：調査研究委員会・広報委員会 公民館 視聴覚室・学習室1
- 1月 9日（土）19：30～：事務局会議 公民館 学習室3
- 1月22日（金）19：30～：保護者会との懇談会 公民館 視聴覚室

編集後記

- 気づけば師走！2009年やり残すことがないように突っ走ります。（どろん子指導員 橋本）
- 10年ぶりのスケート。3歳の娘と手をつないだものの脚が動きませんでした。怖いと娘が大泣きされ大注目！恥ずかしかったです。（図師指導員 大野）

『くれよん』は保護者と指導員で構成された広報委員会が毎月発行しています。バックナンバーの一部はホームページでご覧いただけます。

<http://www.machida-gakudou.com>